

都市再生整備計画 フォローアップ報告書

隈府中央地区

平成27年3月

熊本県菊池市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
指標1	主要な交流施設利用者数	千人/年	228	190	199	確定 ●	○	あり	-	-	-	-	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	今後の市民広場整備等により減少傾向に歯止めをかけていくことが必要となる。
指標2	居住環境満足度	ポイント	0.24	0.39	0.07	確定 ●	×	あり ○	0.24	H27年3月	×	市民広場の再整備の未着	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input checked="" type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	本計画内の都市計画道路と市民広場の未完成が満足度が目標値へ届かない要因だと考えられる。
指標3	歩行者交通量	人/日	177	212	193	確定 ●	△	あり ○	238	H26年11月	○		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	道路整備・空家対策により、歩行者は増えた。限府中央線の開通後はさらに増加すると見込まれる。
指標4						確定 ●		あり ○		H 年 月			<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
指標5						確定 ●		あり ○		H 年 月			<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
その他の数値指標1	「公園・広場などの憩いの場」に対する満足度	ポイント	-0.43	/	-0.28	確定 ●	/	/	-0.1	H27年3月	/		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	ポケットパーク整備や市民広場における公園花壇整備等により、満足度が高まった。
その他の数値指標2	「もてなし空間歩行者空間」に対する目標達成度	ポイント	0	/	0.44	確定 ●	/	/	0.46	H27年3月	/		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	交流・滞留空間が生まれる面的なひろがりをもった歩行者ネットワークの形成が進んでいる。
その他の数値指標3			/	/	/	確定 ●	/	/		H 年 月	/		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	国際交流の推進 新たな文化やにぎわいの維持・創出	平成26年10月11日、12日に菊池国際交流映画祭を開催。	これまでにない来客者数を呼び込むことができた。	今後も継続して進めていく。
	市民主体のまちづくりの継続 人と人との連携	学生と地域が連携し主体となる域学連携事業においてのまちづくりを継続中。毎月開催の軽トラ朝市も、57回(平成27年1月)継続中。	まちづくりの意識が徐々に高まりつつある。	今後も継続して進めていく。
	多様な都市機能が集積する住む場としての魅力形成	なし。	なし。	平成27年度より立地適正化計画の策定を予定。現在は情報収集作業を行っている。多方面からの議論が必要となることが考えられる。
	回遊性の高い歩行者ネットワークの維持 安全・安心な市街地環境の形成	案内板の整備	観光者にわかりやすいサインの設置を行った。	随時情報の更新を行う必要がある。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	市民広場の再整備	住民とのワークショップの実施。	30年度の完成を目指し、「市民力」の高まりと、構想の具体化に向け動き出している。	平成30年度完成を目指し市民広場再整備事業を行っている。
	人と人との連携	軽トラ朝市・域学連携事業	人と人との連携が生まれている。	今後も継続して進めていく。
	新たなにぎわいの創出	住民との協働、ワークショップにより新たな形の公園整備を行った。	空き地を公園として緑化することにより、まちに滞留拠点となる場所ができた。	今後も継続して進めていく。
	商店街の再生 空き店舗対策	移住者の会やまちづくり団体などによる、空き店舗の活用	これまでは使われていなかった空き店舗に人と人との交流がうまれた。	今後も空き家の利活用策を検討しながら、継続して進めていく。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

都市再生整備計画

わいふちゅうおうちく
隈府中央地区

くまもと きくちし
熊本県 菊池市

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	熊本県	市町村名	菊池市	地区名	隈府中央地区	面積	208 ha
計画期間	平成	15	年度	～	平成	24	年度
				交付期間	平成	20	年度
						～	平成
						24	年度

目標

大目標 観光拠点と生活拠点が一体となったまちづくり

目標① 「人」を中心とした「水と緑」、「歴史(文化)」、「国際」交流によるにぎわいの再生

目標② 多様な機能を有する、魅力ある暮らしの場所の形成

目標③ 人と人、各種拠点施設を有機的に結びおもてなし空間の創出

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・菊池市(以下「本市」という)は、2005年3月22日に旧菊池市、菊池郡七城町、旭志村、泗水町の合併より誕生した新市である。
- ・本市は、熊本県の北東部に位置し、阿蘇の外輪山を源とする菊池川・合志川の恵みによる緑豊かな自然とともに、菊池温泉街をはじめとし、古い歴史、伝統、文化を誇る都市である。
- ・隈府中央地区は古くから、菊池一族の統治による九州の政治・文化の中心地として栄え、政治・教育・文化面において大きく影響を与えており、新市の中心商業地としても位置づけられている。
- ・H11年策定の中心市街地活性化基本計画において、「観光拠点と生活拠点が一体となったまちづくり」を基本目標に、①隈府地区を中心とする”まちの顔”としての中心商店街の活性化、②地元住民の憩いとふれ合いの場である市民広場の再整備、③市民の福祉と生活文化の向上を図るための総合センター建設、を柱とする中心市街地活性化が進められている。
- ・特に、市民広場再生整備事業においては、第3次総合計画において、「市民広場を核とした温泉街と商店街が一体化した商観光の推進」が掲げられており、夢美術館、物産館の整備が随時進められている状況である。
- ・まちづくり総合支援事業(H15～H19年)において、①まちの回遊性を高めるネットワークの構築として、景観に配慮した道路修景整備や、②都市計画道路整備による都市基盤の更新として、隈府中央線の整備、③市民参画によるまちづくりの実践として、温泉協会、市民、行政の協働によるまちづくりの推進が進められている。
- ・平成18年度には温泉街を核とした、「菊池温泉再生プロジェクト」の検討が行われ、ツアー商品の開発や福祉系有資格者・客室係の育成やまちなかの回遊に向けた取組みが提案されたところである。
- ・本市は韓国入ビザ恒久免除にむけて先進的に提案を行い、平成18年3月より、90日以内の短期滞在査証免除の恒久化に着手している。また同時にホームステイによる相互交流やスポーツ・文化交流をすすめ、両国間の交流発展に貢献したとして韓国大統領に叙勲を受けるなど、国際交流に向けた取組みが進められている。
- ・核家族化、世分離の進行による子育て負担の増加に伴い、地域ぐるみで子育て支援を行う必要性が高まり、これまでの児童育成計画及び母子保健計画のを踏まえて、「菊池市次世代育成支援行動計画」が平成17年度に策定された所である。

課題

本地区は菊池市の中心地区として、商業だけでなく、自然・観光・文化が一体となった地域資源の再創出を図るとともに、交流性の高い歩行者(空間)・人的ネットワークの形成や多様な機能が集積する暮らしの場所として、個性あるまちづくりの推進を目指す必要がある。

- ・本地区は菊池一族の歴史や菊池神社を始めとした、歴史・文化に加え、阿蘇の外輪山を源とする菊池川・合志川の恵みによる緑豊かな自然を有し、菊池温泉街をはじめ、菊池公園など豊かな自然にあふれる中心市街地としての特徴を持つ。しかし、人口の減少、宿泊客の減少による温泉街の衰退、また隣接する商店街の店舗数の減少や空き店舗の増加と共に買物動向の変化により、中心市街地としての活力が衰退している。また、各種拠点施設・機能間の連携が乏しく、本地区の資源を有効に活かしていない状況である。そこで、本地区の特性を活かし、商観光の連携と新たな賑わい・活力の創出に向けて、商店街、温泉街、市民等が連携・交流することによる「人が育む賑わい」を契機とし、菊池の新たな特性である国際交流への対応や、人と人、自然や文化と交流できるような空間作りによる商店街形成を図ることにより、賑わいの再生を図ることが必要である。
- ・中心市街地の再生にあたっては、商観光機能の活性化、文化・公共サービスといった「都市機能」による賑わいに加え、人々がそこに暮らすことによって生まれる生活・文化、交流(コミュニティ)による魅力の形成が重要である。しかし、本地区においても近年人口の減少や高齢化率の増加により、地域活力の衰退が見られる。また市民アンケートにおいても、福祉、いきがづくり(生涯学習)、子育て支援となど、安心・安全で誰にでもやさしい、住みやすい環境の形成が望まれている。そこで、高齢者や子供、そして支える人々など、誰もが安全・安心して暮らせ、余暇活動や生きがいがづくりを達成できる居住環境の形成を図ることにより、コミュニティの育成など人々が織りなす賑わいと、自然・歴史・国際交流による商観光としての賑わいとを融合することで、住む場所としても魅力ある隈府地区としての整備を図ることが必要である。
- ・隈府地区の観光入込者数は、夢美術館や観光物産館の整備にともない増加傾向にある。しかし、宿泊客者数は年々減少傾向であり、通過型の観光地としての特性が強くなっていると考えられる。特に、商店街と温泉街及び市民広場など各種拠点施設の連携が乏しく、街なかの回遊を形成することが急務であるとの課題も上げられている。なお、ネットワーク形成においては、ハード整備のみならず、地域住民の連携といったソフト活動も重要である。そこで、歩行者ネットワークが一つの出会いの場となり滞留できる空間として各施設をつなぐことを目指して、ハード・ソフト事業を一体的に進める必要がある。

将来ビジョン(中長期)

- ・本市総合計画では、「豊かな水と緑、光あふれる田園文化のまち」～菊池北部の豊かな自然環境や歴史を活かし、人のやさしさでつくり上げる健康で活力のあるまちづくり～として、豊かな自然環境を基盤として、歴史や文化を活かした個性あるまちづくりの展開を目指している。
- ・また上記計画では、3つのまちづくり目標(①水と緑に育まれた「心のふるさと」づくり②水と緑を活かした「活き活きふるさと」づくり③水と緑に包まれた「爽快ふるさと」づくり)をもとに、商業地の活性化や、本市の資源を活かした観光振興とともに、魅力的な市街地の形成や交流拠点の整備が謳われている。
- ・旧菊池市都市計画マスタープランでは、水源森林都市菊池～水と緑を都市の骨格とし、水・緑にこだわって都市の姿・形を整える～を目標として、歴史と自然を活かした都市計画の実現が謳われている。特に、本地区においては、都市機能の充実や良好な居住環境の形成や新たな観光施設の整備を図り、交流拠点としての滞留・憩いの空間の創出を目指している。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
主要な交流施設利用者数	千人/年	菊池を代表するイベントや活動、情報発信や人の交流が活発に行われる主要施設の利用者数 (「きくち観光物産館」「菊池夢美術館」「わいふ一番館」)	地域の個性や魅力を高めることで、市内外から訪れる人の増加や人と人との交流が活発になることから、来訪者が立ち寄り、市民活動が行われる本指標を扱うものとする。 (減少数の抑制。事業なしの場合、H24の将来推計値153.1千人に対し、36.9千人増(H20年からの減少数を半減)を目指す。)	227.8	H20	190.0	H24
居住環境満足度	ポイント	市民アンケート調査による居住環境満足度のポイント ※従前地は、H20.3都市計画マスタープラン策定に係る市民アンケート調査(H19.10配布回収)、「快適な居住環境に対する満足度(限府小学校区を対象)」	良好な居住環境の形成を進めることで、本地区に住む人の満足感が高まることから、本指標を扱うものとする。 (各種事業の実施に伴い、2～3割の方の意見が満足方向へ上昇することを目標として、0.15ポイントの増加を目指す。) ※満足度の平均点は、「満足:2点」「どちらかというと満足:1点」「普通:0点」「どちらかというと不満:-1点」「不満:-2点」として算出	0.24	H20	0.39	H24
歩行者交通量	人/日	限府地区商店街の歩行者数 (交通量調査による集計)	各種交流施設、拠点施設の整備により新たな賑わい交流空間が生まれるとともに、おもてなし空間の創出による中心市街地への吸引力の向上、またまちなか居住にむけた取組みによる地域活力が高まることから、本地区に住む人・訪れる人が増加するものとして、本指標を扱うものとする。 ※御所通まちかど資料館前の日曜日(9時から17時まで)の歩行者交通量(20%増)	177	H19	212	H24

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【目標①】「人」を中心とした「水と緑」、「歴史(文化)」「国際」交流によるにぎわいの再生にむけた整備方針</p> <p>(1)自然・文化機能の強化・創出 :年間を通して菊池を代表する各種お祭り・イベント活動の拠点であるとともに情報発信の拠点である市民広場を活用し、人や文化交流の強化を図る。また、市民広場に隣接するさくらやつつじなど緑豊かな菊池公園や菊池神社周辺への散策路の整備や公園内の花壇整備により、周辺の自然や歴史との触れ合いの創出を目指す。</p> <p>(2)国際交流の推進(多様な文化の創出) :菊池市で韓国や中国等外国文化との触れ合いにむけて、各種取組み方針・将来像及び事業整理を行う。また、市民との連携による国際観光を目的とした社会実験等の実施により、商観光活性化に向けた新たな息吹を創出させる。</p> <p>(3)市民によるにぎわいの創出 :商店街や温泉協会など各種関係団体との連携により、菊池の資源を活用した空き店舗の活用など、市民によるまちづくりの展開により地域活力の再生を目指す。なお、空き店舗活用においては、外国人のおもてなし・菊池市民の国際交流のふれあいとして各種外国料理店の誘致、菊池市の特産品等による活用等の整備を実施する。</p>	<p>□市民広場既存施設解体事業【地域創造支援事業:提案事業】 ■公園花壇整備事業【高質空間形成施設:基幹事業】 ○花いっぱい運動(植栽・植樹)【関連事業】 □(仮)観光交流ガイドライン策定事業((仮)きくちだからできる国際交流マスタープラン)【事業活用調査:提案事業】 □国際交流促進事業(外国料理店誘致社会実験、外国映画際の実施、外国人サポート案内事業)【地域創造支援事業・まちづくり活動推進事業:提案事業】 □空き家・空き店舗対策調査事業【事業活用調査:提案事業】 □空き家・空き店舗活用事業【地域創造支援事業:提案事業】 ○特産品開発事業【関連事業】</p>
<p>【目標②】多様な機能を有する、魅力ある暮らしの場所の形成にむけた整備方針</p> <p>(1)地域住民の交流・余暇活動達成に向けた拠点施設の整備 :暮らしの場所としても魅力ある“まち”の創出にむけて、人々がそれぞれのライフスタイルを満たすことができるよう、地域住民の交流の場、余暇活動の場として、高齢者の保健福祉機能を有する老人福祉センターの整備を図る。</p> <p>(2)地域コミュニティの創出等、魅力ある暮らしの「場」づくり :ハードとしての街並み環境に加えて、まちづくり組織やワークショップの開催、イベントの実施等、市民によるまちづくりの展開により、地域コミュニティの再創出による、住む「場」としての魅力を生み出す。 :また、菊池公園内及び修景道路沿道における花壇の設置においては、地域住民による整備を行うことで、地域活力・地域コミュニティを育む。</p> <p>(3)街なか居住支援策づくり :若者の定住化促進、高齢者にも住みやすい場づくり等、地域活力の再生に向けて、まちなか居住促進を図るための支援措置の検討・実施を目指す。そのため、胎動期としての居住推進プロジェクト、ガイドライン策定等をすすめていく。</p>	<p>□老人福祉センター整備事業【地域創造支援事業:提案事業】 □足湯のまち温泉送水計画設計事業【地域創造支援事業:提案事業】 □まちなか居住推進ガイドライン策定事業【事業活用調査:提案事業】 □まちなか居住支援事業【地域創造支援事業:提案事業】 □事業効果分析【事業活用調査:提案事業】</p>
<p>【目標③】人と人、各種拠点施設を有機的に結ぶおもてなし空間の創出にむけた整備方針</p> <p>(1)街なかの面的な出会いの場となる歩行者ネットワークの形成 :本地区南北の主軸となる(都)限府中央線をはじめとし、各種拠点施設を有機的に結び、安全・安心に歩ける景観に優れた歩行者道路の形成とともに、主要ポイントでポケットパーク等の整備を図ることで、回遊性に優れた歩行者ネットワークが一つの出会い空間となるような歩行者ネットワークの整備を図る。また、商店街活動で実施されてきたソフト事業と連携する事で、おもてなし空間の創出を図る。 :歩行者ネットワークの整備にあたっては、質の高い都市環境の形成を図るため、環境負荷の低減、温泉のまち菊池の演出に配慮した街路灯整備を進める。</p> <p>(2)各施設への誘導と回遊ツールの提供 :歩行者ネットワークのクロスポイントや各拠点施設において、案内板やサインを設置する事で、まちなか観光空間としての整備を図る。なお案内板の設置においては、外国人に対応した表示を行うものとする。 :上記施策実施においては、これまでの市民活動によるマップ等や観光団体による活動と併せて一体的に実施することで、人々の顔が見えるまちとしておもてなし空間の創出を目指す。</p> <p>(3)交流・滞留空間の創出 :訪れる人が菊池の文化や豊かな水と触れ合うことのできる交流・滞留の場として、また地域住民の憩いの場として、足湯の設置など温泉街菊池としての特色あるポケットパークの整備を図る。</p>	<p>■(都)限府中央線整備事業【道路:基幹事業】 ■市道大琳寺木庭線道路整備事業、市道巨高野瀬線道路改良事業【道路:基幹事業】 ○市道北原袈裟尾線整備事業【関連事業】 ■上町線回遊道路整備事業、切明榊方線回遊道路整備事業(中町、下町、切明)、迎町北宮線回遊道路整備事業(迎町・北原)、栄町正観寺線回遊道路整備事業(栄町)、正院町温泉通線回遊道路整備事業、西正菊高線回遊道路整備事業【高質空間形成施設:基幹事業】 ■街路灯設置事業(限府中央線、温泉街地区)【高質空間形成施設:基幹事業】 ■案内・情報サイン整備事業【地域生活基盤施設:基幹事業】 ■ポケットパーク整備事業(切明、横町)【地域生活基盤事業:基幹事業】</p>
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民参加によるまちづくりの展開 本地区では、まちづくり総合支援事業における各種まちづくり活動の展開により、「景観形成ワークショップ」「菊池温泉街まちづくり協定部会」「限府のまちなかマップ部会」など、地元住民を主体としたワークショップを展開しているところであり、まちづくり交付金における各種事業実施においても、引き続き住民主体の事業実施を進めていくことにより、更なる展開を目指すものとする。 ・地区関連施策との連携 新市合併後、H19年度より新たに中心市街地活性化基本計画の見直しや市民広場再整備事業ワーキンググループにおいて中心市街地活性化に向けた各種検討が行われていることから、事業の推進においては各種団体との連携を踏まえて、検討を進めていくものとする。 ・交付期間中の情報公開 交付期間中において、目標に向け各種事業を円滑に進め、市民の理解と賛同を得るためにも、各種事業の進捗状況を適宜公表していくものとする。 特に、まちなか居住ガイドラインや観光ガイドラインなどについては、ホームページによる広報活動を実施し、菊池市としての取組みの周知、居住支援策の広報など展開していくものとする。 	

